

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2845 号

Safety and short-term efficacy of preoperative FOLFOX therapy in patients with resectable esophageal squamous cell carcinoma who are ineligible for cisplatin

シスプラチン不適な切除可能食道扁平上皮癌患者に対する術前 FOLFOX 療法の安全性と短期的な有効性

角埜 徹 (かどの とおる)

博士 (医学)

論文内容の要旨

本邦における切除可能な局所進行食道扁平上皮癌に対する標準治療は、JCOG1109 試験の結果から術前ドセタキセル、シスプラチン、フルオロウラシル(DCF)療法+手術である。術前 DCF 療法の治療完遂割合は 86%で、Grade3 の発熱性好中球減少症と食欲不振がそれぞれ 16%、21%に生じた。また病理学的完全奏効割合は 19%だった。シスプラチンは高度催吐性や腎毒性、大量輸液の必要性から腎機能障害や心機能障害のある患者、高齢者に対し不適である。オキサリプラチン、フルオロウラシル、ロイコボリン(FOLFOX)療法は、催吐性や腎毒性が低く大量輸液を必要としない。しかしシスプラチン不適な患者に対する術前 FOLFOX 療法に関する報告は限られている。我々は 2019 年から 2021 年の間に当院で術前 FOLFOX 療法を受けたシスプラチン不適な切除可能局所進行食道扁平上皮癌患者を後方視的に検討した。シスプラチン不適は 75 歳以上、または腎機能障害(クレアチニンクリアランス $<60\text{mL}/\text{min}$)、心機能障害(心臓超音波検査で駆出率 $<50\%$ 、過去の心不全またはコントロール不良の不整脈歴)とした。術前 FOLFOX 療法は 3 または 4 コース投与した。術前化学療法中の治療完遂割合、有害事象、完全切除割合、病理組織学的奏効を評価した。35 例の適格患者の患者背景は以下である；年齢中央値 77 歳[範囲：65-89]、パフォーマンスステータス 0/1、40%/60%、臨床病期 I/II/III/IVB、11%/29%/57%/3%。シスプラチン不適な理由は、腎機能障害が 74%、75 歳以上が 69%、心機能障害が 17%だった。化学療法の中止は病勢進行で 2 例、発熱性好中球減少症で 1 例、好中球減少症で 1 例であり、治療完遂割合は 89%だった。10%以上出現した Grade3 以上の有害事象は好中球減少症が 60%、白血球減少症が 29%だった。2 例(6%)の患者が発熱性好中球減少症と肺炎を発症した。グレード 3 以上の食欲不振と悪心はそれぞれ 1 例(3%)のみだった。35 例中 4 例は手術を受けなかった(患者希望 3 例、肺炎 1 例)。完全切除割合は 87%、病理学的完全奏効割合は 16%だった。術前 FOLFOX 療法は術前 DCF 療法と同等の治療完遂割合と病理学的完全奏効割合を示し、有害事象は軽度だった。